ほっぷすてっぷじゃんぷ

特訓進学塾 名教

MEIKYO KODOMO くらぶ

2012年度版 第8号

塾長コラム

あんぱんち

～第三十一回～

師走です。今年は、総選挙もあるせいか、せわしなく感じるのは、私だけでしょうか。でも、普段、子どもたちと話をしていると、「紅白に○○が出る！」「今日は、歌謡祭の日だ、録画してくるのを忘れた！」といった声が聞かれ、いつもの師走だなとも感じます。

さて、まずはここで、下の「今月の学問のすすめ」のコーナーを読んでみてください。

今回の「学問のすすめ」を読みながら、ずいぶん前のことを思い出しました。私が大学4年生の頃のこと、就職試験を経て、内定をもらった後、入社前の事前研修での出来事です。私たちは、「社会人とは」とか、「塾の先生とは」といったテーマで基礎の基礎を学んでいました。そんな研修の中で、講師の方から、突然こんなことを問われました。

「子どもから、『何のために勉強するの？』って聞かれたらどう答えるの？」

周りにいた同期入社の一人は、「受験に勝つため。」と答え、別の一人は、「将来役立つから」と答えていました。一方の私は・・・。

正直、答えに困り、何も言えなかったことを今でも忘れません。自身の子ども時代を振り返っても、「勉強なんてして将来役に立つの？」「方程式使って買い物なんかしないよ。たし算、ひき算、かけ算、わり算ができれば十分だ。」「日本で生きていくのに、英語なんか必要ないし。」などと本気で考え、中学校や高校の先生たちによく訴えていたぐらいです。今思えば、塾の先生を志しておきながら、何のために勉強するかなんて考えたこともなく、大変恥ずかしいことです。先生という夢が現実になろうとしていた直前に、そんな質問を投げられ、「子どもが好きということだけであこがれた仕事だけど、それだけでは務まらないんだ」と思い知らされた出来事でした。

答えられなかった私に、質問をした講師の方は、こんなヒントをくれました。

「答えられないのが正解かもね。でもさ、子どもたちに勉強を教えるんだろ。勉強の目的ってのは、受験のためとか、そういう目先のことだけではないんだよ。学ぶことの意味をちゃんと語れるように、もっと君自身が考えておけよ。入社までにまだ時間があるから。教える教科の内容はもちろん大事。でも、それだけに目が行くとつまんない授業しかできないんだよ。」

この方は、私が入社した後の4年間、直属の上司として私を鍛えてくださいました。今では、その方も、私も、当時の塾を離れていますが、塾の先生としての私の師匠です。今回の「学問のすすめ」の一文は、その出来事の後に読んだものです。

よく子どもたちは言います。「何のために勉強するの？」「方程式って世の中で使わないんでしょ。」…。小学5年生くらいになると、そんなことをいい始める子が多い気がします。

「あなたが、社会に貢献するために、世の中の役に立つために、勉強するんだよ。」今の私の回答です。

今年も皆さまには大変お世話になりました。そして、来年もよろしくお願いします。それでは、よいお年をお迎えください。

塾長　西川　陽祐

今月の学問のすすめ

《もとの文》

もっぱら勤むべきは、人間普通日用に近き実学なり

《今のことばでいうと》

みんなが一生懸命にやるべきは、ふつうの生活に役に立つ学問です。

世の中の役に立つ学問のことを「実学」といいます。この言葉を覚えておこうね。なぜなら社会では「実学」がとてもたいせつなんだと、諭吉先生はいっているからです。

じっさいに役だつ学問はなにかというと、「科学」がそうですね。科学の発明によって、世の中がガラリとかわってしまうことがあります。

みんなは白熱電球を発明したエジソンを知っているよね？　エジソンのおかげで、私たちの生活はものすごく進歩しました。

でも「実学」は科学だけではありません。文科系の勉強にも「実学」はたくさんあります。法律学や経済学のように、社会全体に必要な学問もあるし、英語などの語学のように、人と話すときに必要なものもあります。「実学」は、理科系と文科系の両方をしっかり学ぶことで身につきます。

だからすくなくとも高校生までは、すききらいにかかわらず、文科系、理科系、両方の科目を全部学んだほうがいいと思います。栄養とおなじだね。すききらいなく、何でも食べられる人は、栄養が身になって、つよい体になれます。

理科も算数も国語も社会も、つよい頭をつくって、自分の力で生きるために必要な「実学」だったんです。

『こども「学問のすすめ」』（齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行）

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 40

絶対に横入りをしてはいけない。ただし、だれかがきみの前に横入りしてきても、それについて文句をつけたり、なんらかの行動に出たりしてはいけない。何もいわず、何もしないで、わたしに知らせてほしい。問題はわたしが解決する。

もしきみが横入りした人に文句をいったりすると、トラブルになるかもしれないが、横入りはトラブルに値するほどの問題ではない。わたしに知らせればすむことだ。ほかにも、クラスメートとのあいだで何か問題が起きそうなときには、必ずわたしに知らせること。問題がなんであれ、自分でなんとかしようとしてはいけない。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～　（ロン・クラーク著　亀井よし子訳　草思社）より